

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2690300021
法人名	株式会社メディカジャパン
事業所名	京都壬生ケアセンターそよ風
所在地	京都府京都市中京区壬生天池町24 (電話)075-803-1593

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年4月8日

## 【情報提供票より】(平成20年1月16日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	166 円
	または1日当たり		1,666 円	

## (4)利用者の概要( 11月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	6 名	要介護2	7 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	西京都病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR二条駅にほど近い民家の立ち並ぶ地域にあるグループホームです。経営母体は、10年以上に渡る福祉施設へのコンサルタント事業の実績があり、「家族主義」をモットーに「医療・健康・福祉」の分野で地域福祉に貢献している大型企業であり、運営管理や研修体制も整っています。ホーム1階には支援センターとデイサービスセンターが併設されており、地域の方との交流の場として活用されています。ホーム内は、和風の家具で統一され、季節感のある飾りつけが工夫されており、落ち着いた家庭的な雰囲気です。入居者は職員と共に日々料理や生け花、観葉植物の世話など役割を持って生き活きと生活されています。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価です。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員は、外部評価の意義を理解しており、今回の自己評価についても、管理者、リーダーが中心になり、職員全員と協議し、気づきを取り入れながら作成されています。さらに自己評価を生かして地域との交流・身だしなみ・事故防止等、具体的な改善目標をあげサービスの向上に向けて取り組んでいます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームでの行事や近況報告をはじめ、さまざまな情報をもったり、意見交換を通してサービスの向上に活かしています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族がホームに来られた際や電話、年に2回の家族会、運営推進会議にて意見や要望を表す機会を設けています。来られない家族には広報誌にコメントを記入し、送付しています。また、外部も含め、苦情対応窓口について、書類に記載し案内しています。家族からの意見や苦情は記録され、誠意を持って対応されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設して間もないこともあり、現在は地域との良い関係を築くための基盤整備の段階です。運営推進会議を活用して、地域女性会への働きかけや、幼稚園や学校との連携が図れるよう検討されています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私達は高齢者社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます」の事業理念を念頭において日々実践している。	○	今後は、事業所独自の理念として、地域と共に暮らすことを盛り込んだわかりやすい理念を作られることを希望します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、毎朝朝礼時に理念を唱和し、理念を実践することで明るく元気な生活につながるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、施設の行事等に地域の方を招くなどして交流に努めている。	○	自治会の回覧板をまわしていただくことから地域とのつながりを持ち、積極的に地域の行事にも参加するなど、交流が深められ、入居者が地域と共に暮らしていけるよう支援されることを希望します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、外部評価の意義を理解し、改善シートを活用して職員全員で目標を持って改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、地域包括職員、地域学区連合会長が参加する運営推進会議は、昼食の試食を兼ねて行われ、さまざまな情報をもらったり、意見交換を通してサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことなどについて市の担当者に相談し、助言をもらうようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや日々のご様子、職員の異動などはホームに来られたときや電話やファックスなどで報告している。また、毎月請求書や領収書と共に、ホーム便り(そよ風だより)と個々の暮らしぶりなどについての手紙を添えて送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際や電話、運営推進会議にて意見や要望を表す機会を設けている。また、外部も含め、苦情対応窓口について、書類に記載し案内している。家族からの意見や苦情は記録され、誠意を持って対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係が長く継続できるよう、法人による異動は最小限に留められている。やむを得ない場合は、利用者に徐々に馴染んでもらえるように、古い職員が1ヶ月程度付き添い一緒に仕事をするなど、勤務体制を工夫している。また、管理者は定期的に面談を行い職員の気持ちを汲み取り、離職者が出ないよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規開設時より、本部から研修計画が生まれ、実施されている。また、外部研修や施設見学にも積極的に参加し、参加後は全体会議にて伝達研修を行い個々の知識や技術の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護支援専門員の連絡会やグループホーム協議会での研修などを通じて同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に出来るだけ見学にきていただき、雰囲気に馴染んでいただけるように配慮している。要望があれば体験利用できる体制もある。また、その方に合わせた環境が整えられるよう家族を交えて検討されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活の中で、料理や生け花、礼儀作法、地域のしきたりなど入居者に教えて頂き、個々の得意なことを教わりながら、共に過ごし、支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報を基に、日々の生活の中でご本人の思いや希望を申し送りノートに書き留めるなどし、把握に努めている。積極的に希望を表現されない方もタイミングを図りながら思いを把握するように努め、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、本人の思いや希望を把握し、職員間でカンファレンスを行い、家族や医師の意見も反映させた利用者主体の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて随時見直しをしている。基本的には3ヶ月に1回、モニタリングを実施し、介護計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院への付き添いや、個別の外出、ご近所の友達に会いに行くなど、その時々に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診されている方もありますが、個々に連絡、連携ができるよう体制が構築されている。また、協力病院からは定期的に往診があり、夜間など緊急時の対応ができるよう連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所で出来ること・出来ない事の方針を家族に理解頂き、家族、医師、職員で話し合いながらケアに取り組んでいる。	○	開設したばかりであり、現在対象者はないが、今後の取り組みとして利用者や家族の希望を聞きながら、職員全員で話し合い、方針を共有できるよう希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者に対する言葉かけやプライバシーの保護について常に意識し、不適切な対応がないよう心掛けている。個人情報事務室の棚で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは大まかな日課のみに留め、その日の本人の状態や気持ちを優先し、個々の生活リズムを大切に支援を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は本社の管理栄養士が立てたものを基本とし、調理の準備や盛り付け、配膳、後片付けなど出来ることを職員と一緒にやっている。希望があれば、献立を変更することもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後1時30分から4時30分の間を基本に毎日希望に配慮し、実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字や塗り絵、工作、観葉植物の世話、部屋の掃除、洗濯干しや洗濯たたみなど日々の生活の中に生活歴や力に応じた役割があり、入居者は生き活きと生活されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者個々の買い物や、食材の買い足しなどで出かける機会が多々あり、季節に応じて観梅、桜の花見や藤棚散歩、紅葉狩りなどの外出を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	設備上、ドアは自動ロックシステムで、戸外には自由に出ることができないが、ユニット間の扉は開放されているため、閉鎖的な感じは受けない構造になっており、希望時には職員が付き添って外出している。	○	開設当初でもあり、危険防止や家族の希望が優先となっているが、今後は、研修や他施設の見学等で職員の不安を取り除き、家族理解のもと鍵をかけないケアに取り組まれることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と合同で日中時と夜間時の避難訓練を実施している。訓練終了後に消火器の使用方法や避難時の問題点の検討など行っている。	○	消防署だけではなく、運営推進会議などを活用し、地域と合同の避難訓練を実施したり、災害時に施設が協力できることなどもアピールし、ホームへの理解と協力が得られるよう取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は本社の管理栄養士が作成している。また、食事は個々の健康状態や身体状況に応じた形態で提供され、食事摂取量や水分量についても記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の音や匂い、生活感を感じてもらえるように対面キッチンになっており、リビングには季節感が出るように装飾品を工夫し、入居者が育てておられる観葉植物を置くなど、落ち着いた居心地良い空間づくりに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具、仏壇や写真など個々の大切なものが置かれ、カーテンなども好みにより変えるなど、家族も交えて居心地良い部屋作りを支援している。また、畳対応の居室も用意するなど、入居者の要望に応じて居心地よく過ごせる工夫をしている。		